

茨城・栃木・福島 3 県の広域連携軸形成のための道路懇話会（総括）

平成30年3月
道路懇話会座長 石田東生

1. 3 県の県境地域の現状について

- ・ 今回の検討対象とした茨城・栃木・福島 3 県の県境地域では、FIT 構想などによる各種取り組みが行われているが、その成果や方向性が目に見えない状況
- ・ そのような中、人口減少や地域産業の低迷など多くの課題が顕在化してきており、この地域は重要な政策領域として、早急に対策を講じていく必要がある
- ・ 本懇話会において、3 県の道路の中長期構想を重ね合わせたところ、関係性が明確になり、3 県の構想（茨城・福島県の縦軸と栃木県の縦軸、それを横で結ぶ横軸が整備されることにより、3 県の交流活性化に寄与など）が繋がっていることを確認することができた

2. 高規格な道路について

- ・ 高速自動車国道や地域高規格道路といった高規格道路のスキームで考えてしまうと、各県での取り合いになってしまい、その実現は非常に困難
- ・ あくまで「高規格な道路」として、実現性が高く、取り合いにならないことが重要
- ・ 「高規格な道路」とは、従来の時間短縮効果（定時性、定速性）に加え、安全性（走行性）や災害時のリダンダンシーの確保、更には、景観などに配慮した楽しめる道路というイメージ
- ・ 3 県で足並みを揃え、連携して進めることで、「高規格な道路」を着実に具現化（当面は整備効果や優先順位を勘案し、既存の道路の機能を強化しながら、将来、時間短縮効果の大きい、高規格な道路として活用できるような整備）していくべき

3. 広域連携軸形成に向けた今後の取り組みについて

- ・ 当該地域は何を目指すのか。どうすれば総合的に地域を活性化させていくことができるのかを議論していくべき
- ・ そのためには、行政に加え、地域の人（産業、農業、観光、医療など）を巻き込んでいく必要がある
- ・ 3 県全体のライン（連携軸）として、何と何を結びつけるのか、地域資源を深掘りして、ネットワークにストーリーを創り出し、それを助けるような道路づくりをしていくべき
- ・ 3 県で共通のビジョンを持ち、継続的に協議、調整を図りながら、その具現化に向けた取り組みを押し進めていくことが望まれる